



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/4 (月)	+ 100	▲ 59,500	▲ 59,400	法人税・消費税・保険掛け 国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 3,200		
8/5 (火)	+ 1,000	+ 5,000	+ 6,000				日：日銀金融政策決定会合議事要旨 (6月16・17日分) 米：貿易収支 (6月) ：ISM非製造業総合景況指数 (7月)
8/6 (水)	+ 1,000	▲ 26,000	▲ 25,000	国債発行 (10年)	共通担保 ▲ 8,000		欧：ユーロ圏小売売上高 (6月)
8/7 (木)	トン	+ 2,000	+ 2,000				
8/8 (金)	▲ 1,000	▲ 7,000	▲ 8,000	国債発行 (30年)			日：日銀金融政策決定会合における主な意見 (7月30・31日分) ：貿易収支 (6月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,100億円増加の524兆4,400億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行・償還等の要因により増減し、8月1日は526兆3,900億円（速報）で越えた。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.479%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。
ターム物は1W～3W物0.478%～0.610%のレンジ、1M～3M物0.535%～0.700%のレンジで出合が見られた。
来週の予定は、国内では、8月5日に日銀金融政策決定会合議事要旨（6月16・17日分）、8日に日銀金融政策決定会合における主な意見（7月30・31日分）が公表される。海外では5日に米貿易収支（6月）、ISM非製造業総合景況指数（7月）の公表などがある。

〔無担保コールレート〕

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.53 ～ 0.65
2M	0.54 ～ 0.70
3M	0.58 ～ 0.70
6M	0.65 ～ 0.85

＜レポ＞

足許GC取引は週初+0.48%～+0.49%で出合い始め、取引が月末過ぎとなる30日には一時+0.40%近辺まで低下した。
翌31日の後場には+0.49%近辺まで水準を戻し、短国の発行があった週末も同水準で推移した。
SC取引は2年470～474回債、5年155～179回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

〔オープン市場〕

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ～ 0.65

＜CP＞

今週の入札発行総額は約2兆8,930億円で、週間償還額の2兆9,032億円を下回った。発行残高は先週末時点の25兆5,595億円から、7月31日時点で25兆6,981億円に増加した。発行市場は、陸運業、鉄鋼業、卸売業、ゴム業、その他金融で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では政策金利に近い0.50%台前半での出合い、3か月物では0.50%台後半から0.60%台前半を中心に出合いが見られた。
来週の償還額は9,300億円となっている。発行市場は、翌々週に長期連休を控え、一部の企業で資金調達の前倒しもみられることから、活況なマーケットが予想される。発行レートは、政策決定会合をまたぐ案件について、日銀の政策修正への警戒感から、レート水準を探る展開が見込まれるだろう。

＜TDB＞

8月1日の3M（1322回債）の入札は、最高落札利回り0.4368%（前回債0.4396%）、平均落札利回り0.4321%（前回債0.4268%）となった。
来週の入札は8月7日に6M、8日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。